東京藝術大学美術学部絵画科

日本画

2025

Tokyo University of the Arts
Japanese Painting

製作・発行　2024年度　東京藝術大学日本画研究室

教員

教授

齋藤　典彦
吉村　誠司
植田　一穂
海老　洋
宮北　千織

准教授

髙島　圭史

助教

松岡　歩

テクニカル
インストラクター

長澤　耕平
川﨑　麻央
山田　雄貴

教育研究助手

椎野　倫奈
角谷　紀章
菊池　玲生
齋藤　愛未
大嶋　直哉
勝又　優
島田　滋

※2024年現在

美術学部 アドミッションポリシー

美術学部では、ディプロマ・ポリシーに適う人材を選抜するために、大学入学共通テストに加え、個別学力検査を行っています。大学入学共通テストにおいては、入学後に必要とされる知識のレベルを判定し、個別学力検査においては、入学後の専門教育を行う上で必要な能力を審査する実技試験等を実施しています。この個別学力検査では、技能に加え創造性や表現力等を審査しますが、実施にあたっては各科および専攻の特性を最大限に尊重した内容としています。

美術学部を志望する受験生には、主体的かつ継続的に技能や表現力を向上させる努力とともに、創造性を高めるための幅広い分野の学習を期待しています。

日本画専攻の入試について

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻の入試選抜は、大学入学共通テスト、本学が実施する実技試験、出身学校長が作成した調査書の各資料を総合的に判断し合否を判定します。

個別学力検査（実技試験）は一次試験として「鉛筆素描」を行い、一次入試合格者のみに、二次試験「着彩写生」を課します。

詳細については今後発行する『東京藝術大学学生募集要項』、または藝大 HP（www.geidai.ac.jp）の「入試情報サイト」を確認してください。

Q

日本画専攻 入試の出題について

●学部入試 第一次実技試験　出題（12時間）

二日間で鉛筆素描一枚を完成させなさい。
※但し石膏像は二体以上描くこと。
画面は縦に使っても横に使っても構いません。

1日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30（昼食時間 12:00〜12:30）
2日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30（昼食時間 12:00〜12:30）

観察力、構成力や基礎的な描写力の有無を判断するための出題である。
テーブルの上に背中合わせに3体の石膏像（ヘルメス）を配置し、そこから2体以上を選択して構成することで、対象を切り取り画面に構図する考え方、空間認識力、また絵画としての意識を持って全体のバランスを捉えられているかを評価の対象とした。

※出題内容は2024年度のものです。

●学部入試 第二次実技試験　出題（12時間）

各自の木机と中央の白テーブルにある以下のモチーフを画面上で組み合わせ、構成して着彩写生すること。

各自の木机
●ヤマメ ×2　●保冷箱（フタ含む）×1　●ヒノキの葉 ×1
●クラッシュアイス
中央の白テーブル
●スギ ×1 束　●円筒ガラス器 ×1　●切炭 ×3 個以上
●薪 ×3●サザエの貝殻 ×3

※中央の白テーブルのモチーフは動かせない。また、木机に配布されたモチーフをテーブルに置くことはできない。
※ヤマメは袋から出してよい。袋は描かない。加工はできない。
※ヤマメに触る際は、ビニール手袋を使用してもよい。手袋は描かない。
※氷の袋は描かない。
ほか、注意・禁止事項あり。

1日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30（昼食時間 12:00〜12:30）
2日目　9:00〜12:00 12:30〜15:30（昼食時間 12:00〜12:30）

中央のテーブルに置かれたモチーフと各自に配られたモチーフとを画面上で構成することにより、絵画性や構成力をみる出題である。また色味の少ないモチーフをどのように描くかで各々の色彩感覚も判断する。

評価の基準としては、別々の場所に置かれたモチーフを一つの平面上に統一、構成できているか。その結果として絵画的な構図・構成としてまとめられているか。地味な色味のモチーフからどれだけ魅力的な色彩を抽出できているか。加えてモチーフそのものの実感や、質感等の様々な違いが描き分けられた上で、全体のバランスがとれているのかも大切な評価基準である。

※出題内容は2024年度のものです。

制作風景

絵具講義（1年）

上：絵因果経模写（2 年）
下：植物（百合）

カリキュラムについて

日本画専攻は作家及び美術に関わる諸分野での指導的人材の養成を目標としています。これを実現するために本専攻における研究教育は現代絵画としての創造性の追求と同時に、わが国の美術の伝統と精神を継承し、これを発展させることを主軸に捉えています。

主な授業科目としては、人物・風景・静物・動植物画、版画・壁画の制作、古典模写、人物素描、材料研究、古美術研究旅行、写生旅行等があり、課題別に定められた期間で履修していきます。

学部においては、1・2 年次を基礎課程と位置づけ、伝統的な技法の習得と造形・表現力を養うことを目指します。3年次以降の発展課程では、自由課題を主に前述の事項をさらに前進させ、最終の 4 年次では集大成となる大作を制作し卒業作品展で発表します。

日本画専攻 年間カリキュラム

【前期】

	4月	5月	6月	7月	
1年	植物（百合）	植物（菊）	随身庭騎絵巻　模写	風景制作 50号	夏季休業
2年	絵因果経 模写	東北写生旅行	風景制作 50号	人物制作 50号	
3年	版画・壁画集中講義	人物制作 50号	風景制作 50号	自由制作 50号	
4年	自由制作 100号程度	自画像 15号・自由制作 100号程度		自由制作100号以上	

【後期】

	10月	11月	12月		1月	
1年	人物制作 50号	静物制作 30号	動物制作 50号	冬季休業	自画像(絹本) 15号	
2年	源氏物語絵巻 模写	自由制作 50号	風景制作(建造物) 50号		自由制作(絹本) 30号程度	
3年	自由制作	古美術研究旅行	自由制作		自由制作	
4年	卒業制作				自由制作	卒業作品展

【材料講義】

絵具講義
筆講義
和紙講義
絹本講義
箔講義（平押し）
箔講義（切金・砂子）
裏打ち講義（模写）
裏打ち講義（絹本）
裏打ち講義（150号）
絵画講義
日本画材料講義

小下図研究会（3年）
古美術研究旅行（3年）
箔講義（2年）
裏打ち講義（4年）
東北写生旅行（2年）
卒業作品展（4年）

制作風景

学生からのメッセージ
STUDENT's VOICE

学部４年在学
渡邊 千菜

藝大日本画に通えて良かった事は、現役の作家である先生方が身近にいてご指導を頂ける事や、個性ある同級生に囲まれながら、天井が高く光が綺麗なアトリエで作品を制作できる事だと思っています。

３年生になってから自由制作が増えました。最初の頃は苦手なモチーフを克服しないといけないという固定観念が強かったのですが、好きなものを伸ばす事も大切だと講評会を通じて学び、自分の好きなモチーフを題材に、自信を持って課題に取り組めるようになりました。変に完璧を目指し過ぎず、失敗も経験の糧になるとポジティブな思考になれたのも３年生を通して得た大きな収穫だと思ってます。

今年は、卒業制作があるので、自分の思いや伝えたいことが絵で表現できるように精進していきたいです。

「冬の朝」 F80 号　2023 年　自由制作

「流れ」 F100 号　2023 年　自由制作

学部３年在学
原田 つぐみ

日々の制作では伝統的な素材や技法を学べるのに加え、広く深く自分の世界を広げることができると思っています。自分の作品と向き合う時間は勿論のこと、友人たちや先生方との対話を通して新しい世界の見え方や課題と出会い、自分自身がどんどんアップデートされていくのを感じます。

大学では日本画実技の他にも外国語や解剖学、歴史など様々な授業を受ける機会があり、学部３年生では前期に壁画・版画の実習があるなど、日本画以外の知識や技法に触れる機会も充実しています。日本画制作以外の場で思いがけずヒントを見つけることも多々あり、他では得難い学びを沢山得られる、実りのある大学生活です。

自分にはない感性や美意識を持つ仲間たち、そして遥か先を走る先生方から受ける刺激は、何物にも代えられない宝物です。今後もこのような素晴らしい環境への感謝を忘れず、自分そして制作と向き合いたいと思っています。

「Holy night」 S50 号　2023年　自由制作

大学に入ると、成長の糧となるさまざまな出会いがある。制作中にアトリエに来られる先生方と話す機会があるのは、大学ならではのことだ。先生方からは、同じ作家としての目線で指導を受けることができ、技術的なアドバイスや制作に向き合う態度などを学ぶことができる。また学部３年で行く古美術研究旅行では、仏像など文化財を目の前に、付き添いの先生から学術的な説明を聞くという貴重な体験をした。

そしてアトリエを共にするクラスメイトとの出会いも、かけがえの無いものである。いつもふざけている人も、画面の前に立つと深刻な顔をして制作する。自信げに描いていたと思ったら、研究会で弱音を吐いてみたりする。そんなクラスメイトの姿を見ていると、自分も筆を手に取らずにはいられない。

このような恵まれた環境で制作できることに感謝したい。

学部４年在学
岡田 周也

2023 年度卒業
鹿内 日向子

学生生活で学んだのは、自分の世界を広げることの大切さです。技術や知識だけでは絵を描けないことを、さまざまな出会いを通して実感しました。

アトリエではクラスメイトと共に時間を過ごし、切磋琢磨しながら制作します。入学時は殆どが日本画初心者です。先生方の親身なご指導のもと、時間をかけて作風を確立することができます。特に印象深かったのは古典や文学、あるいは生活環境など、さまざまな文化を愛する個性的な友人たちの姿です。技術が全てだと思っていた自分にとって、心豊かな彼らの内面を映し出す作品はどれも魅力的で、深く心に残りました。いい絵のためには、遠回りしてでも、自分自身を豊かにする必要があり、そのための環境が大学には揃っていると思います。全てが絵に繋がっていく、夢のような４年間でした。

卒業制作は、自分の内面を描きました。学部時代の作品は上手くいかない事ばかりでしたが、そういった未熟な所も含めたありのままの姿を、初めて画面に映しとれたように思います。

「深淵にふれる」 F150号　2024年　卒業制作

進路について

学部卒業後、研究を深めるため大学院修士課程へ進学する者、教職に就く者、就職する者、様々です。

作家として個展、公募展、グループ展等で自作品を発表し、美術界の第一線で活躍している者、小中高等学校、国内外の美術・教育系大学の教員、美術予備校などの講師に採用される者も多数います。また近年、国費・私費留学生として海外へ留学する者も多くなっています。

卒業生からのメッセージ
Voices of Graduates

「花の底」 P10 号

日本画家
大竹 彩奈

現在、日本画の制作活動をする傍ら小説等の本の装丁画を描く仕事をしています。

仕事量は日本画の制作がメインなのですが、装丁画も年間平均１０本程度と私にとっては少なくない量です。装丁やパッケージのお仕事は依頼されてから納品するまでがタイトなので、本業もおろそかにするわけにいかないとなるとハードな日が続くことがあります。たまに「装丁をやめる選択肢はないのですか？」と聞かれることがあるのですが、不思議とありません。自由に描ける自分の制作と、クライアントありきの仕事では挑む姿勢が全く違うので、どちらかに疲れてもどちらかに救われることが多いからです。特に装丁画では自分が描いたことのない表現や題材を依頼されることもあり、必然的に新しい表現に挑戦できるところが魅力です。両者のバランスをとりながら両方向上していきたいと思っています。

装丁画

①

②

③

①梶よう子「焼け野の雉」朝日新聞出版
②天津佳之「和らぎの国 小説・推古天皇」日本経済新聞出版
③帚木蓬生「香子 (一) 紫式部物語」PHP 研究所

FINAL FANTASY VII REBIRTH
担当：ラフ、レタッチ

株式会社 スクウェア・エニックス
イメージ・スタジオディビジョン
デジタルアーティスト
稲葉 水緒

学部卒業後、現在のゲーム会社に就職しました。CG 映像制作部門に所属し、コンセプトアート、キャラクターや背景のデザイン、マットペイント等の 2D アートを担当しております。

出来上がった作品はゲーム内、広告、パッケージなどに使用されます。様々な業務に関わるため試行錯誤の繰り返しですが、世界中のお客様に届き、楽しんでいただけるやりがいのある仕事です。

浪人時代から在学中に学んだ技術的な基礎が今の仕事に通じていることはもちろんですが、自分一人では気付けないことを学び、お互いの価値観を深め合い成長できることが、学校や会社という様々な人達と関わり合う場所の強みであり、共通点だと思います。

優秀で多様な価値観を持つ同級生と共に切磋琢磨し、協力し、諦めず制作に打ち込んだ経験が、今の仕事にも一番活きていると感じます。

卒業後の主な進路

日本画家
アーティスト

中学校教諭
高等学校教諭
専門学校講師
予備校講師
大学教員
学芸員

進学
東京藝術大学大学院

就職
オリエンタルランド
海洋堂
コナミ
コーエーテクモ
Cydesignation
スクウェア・エニックス
SEGA
SONY
宝塚舞台
DeNA
凸版印刷
任天堂
バンダイナムコフィルムワークス
フロムソフトウエア
ポリフォニー・デジタル

出版社
テレビ局員
漫画家
イラストレーター

など

「旅がひらく扉」 173×229cm　2023 年

「きいろいひと」 F50 号　2021 年

「旅にでた庭師」 S40 号　2014 年

教員の紹介
Introduction of Professors

准教授
髙島 圭史

「植物（百合）」から始まる東京藝術大学の日本画教育は、私が学生であった頃から変わりません。「植物（百合）」では、写生から日本画の完成に至る全ての工程をひとつも省くことなく制作します。

目の前にある百合の形を見たり色を気にしたり、家に帰ってから思い出したり、百合が美術史上の作品においてどのように表現されてきたのか調べたり、アプローチを変えて描き直したり。1 本の百合でさえ、描くにあたっては様々な体験があると思います。

日本画の制作では、このような体験の中で各自の観察力、描写力、構成力、知識を活用し、絵を構築していくための具体的な要素を探し出していきます。柔軟で大胆な発想力、自分自身を主体的に更新していく姿勢も必要です。

入学試験の鉛筆素描と着彩写生は、この最初の一歩をしっかりと踏み出すために必要な力を測る課題です。力をつけたみなさんが入学試験を突破して、東京藝術大学のアトリエで日本画制作の一歩目に進むことを楽しみにしています。

版画・壁画実習（3年）

藝祭

日本画第一研究室 研究発表展（大学院）

日本画第二研究室 研究発表展（大学院）

日本画第三研究室 特別観覧（大学院）

天然群青原石（日本画材）

卒業作品展 展示風景